

2025 年 1 月 14 日 全 16 頁

緩やかな回復基調、地域でばらつきも～消費者の節約志向や投資意欲の変化を注視

2025 年 1 月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
研究員 田邊 美穂
研究員 高須 百華

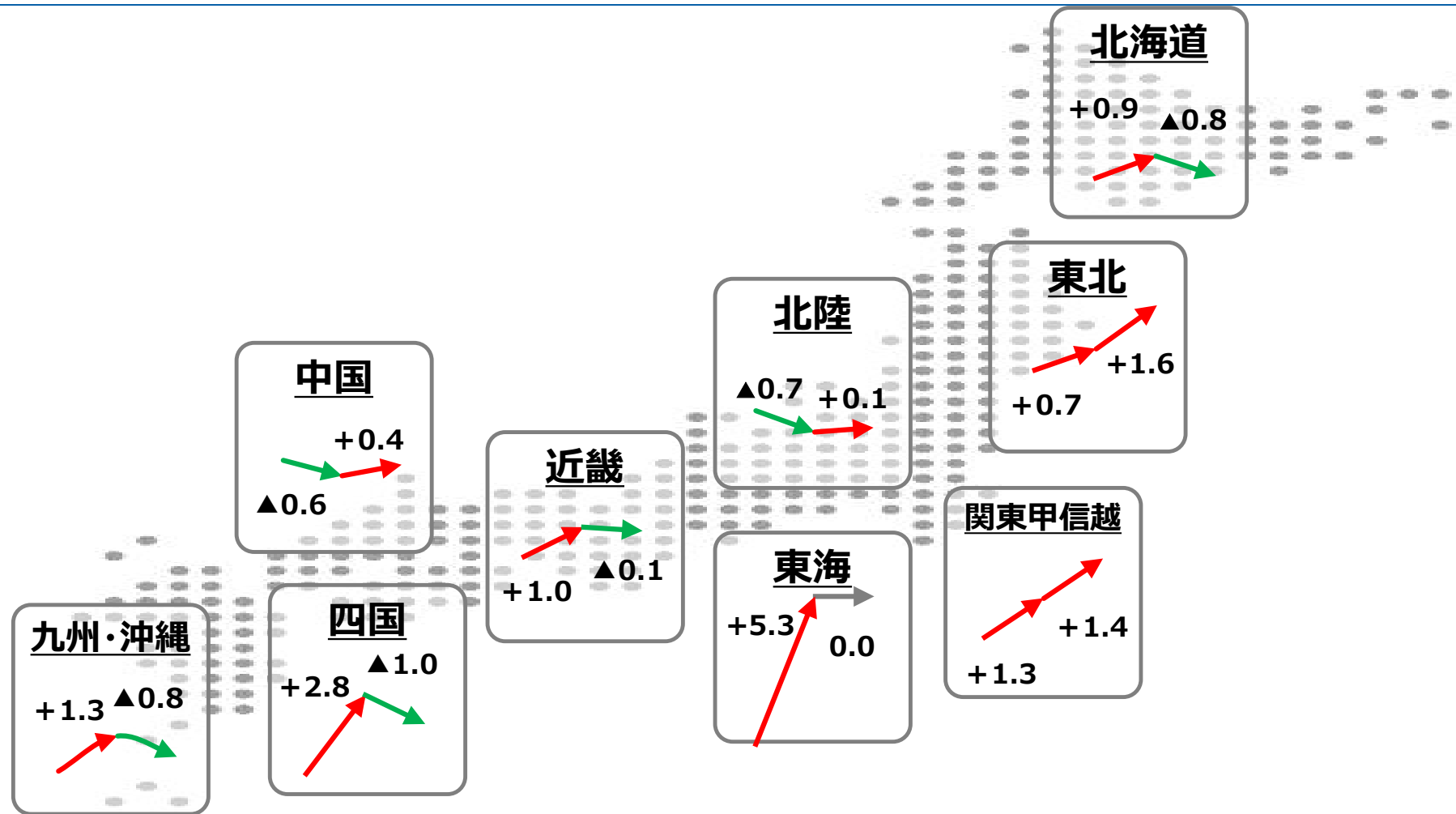
[要約]

- 2025 年 1 月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東北」「関東甲信越」など 4 地域で改善、「四国」など 4 地域で悪化、そして「東海」は横ばいだった。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費が「東北」で改善した一方、「北陸」「近畿」「四国」などでは悪化した。「東北」では供給体制の正常化で乗用車の新車登録台数が減少から下げ止まりに転じつつあり、観光・ビジネス需要などが堅調でサービス消費も改善している。一方、「北陸」では百貨店・スーパー等の売上高に対して物価上昇による影響が懸念されており、さらに「北陸」「近畿」「四国」「九州・沖縄」では家電販売の勢いも弱まっている。住宅投資は、「北陸」で能登地域の地震や豪雨後の家屋修繕の注文が増加するなどの動きもある。雇用・所得環境は前回から大きな変化は見られなかった。企業関連では、企業マインドが「九州・沖縄」で製造業・非製造業ともに悪化したものの、「中国」「北陸」「関東甲信越」「近畿」では製造業を中心に改善した。「中国」は金属製品や電気機械など、「北陸」は汎用・生産用・業務用機械や飲食・宿泊などがプラスに寄与した。生産は地域でばらつきがあり、「東北」「関東甲信越」などで改善した一方、「北海道」「四国」「近畿」などは悪化した。「東北」では輸送機械で生産が改善、「関東甲信越」では汎用・生産用・業務用機械において減少していた生産が下げ止まりに転じている。一方、「北海道」では金属製品と電気機械、「四国」では化学で生産が悪化しており、「近畿」でも電子部品・デバイスで生産の動きが弱い。輸出は「中国」の自動車関連や鉄鋼において悪化した。設備投資は前回から変化はなかった。
- 全国的に見ると、日本経済は緩やかな回復基調にあるが、地域でばらつきも見られる。観光・ビジネス需要の堅調さが一部地域で消費を押し上げる一方、物価高などの影響で消費者の節約志向が強まっている。企業マインドや生産の改善が見られる地域もあるが、原材料費・エネルギー価格の上昇やこれに伴う建築コストの高騰、また海外経済の動向が、生産や輸出に悪影響を及ぼしている地域もある。今後は、原材料費の上昇や建築コストの高騰などの物価高、海外経済といったリスク要因の見極めが必要だ。消費者の節約志向や企業の投資意欲の変化が、地域経済の回復にどのように影響するかを注視するべきだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクス課が担当している。

※ 本レポートの文章は GPT-4o ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (24 年 7 月→10 月、24 年 10 月→25 年 1 月)



(注1) 各地域の数値は、2024年7月から10月の変化幅と2024年10月から2025年1月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（24年10月→25年1月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲0.8						
東北	+1.6						
北陸	+0.1						
関東甲信越	+1.4						
東海	0.0						
近畿	▲0.1						
中国	+0.4						
四国	▲1.0						
九州・沖縄	▲0.8						

（注）さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

（出所）日本銀行資料より大和総研作成

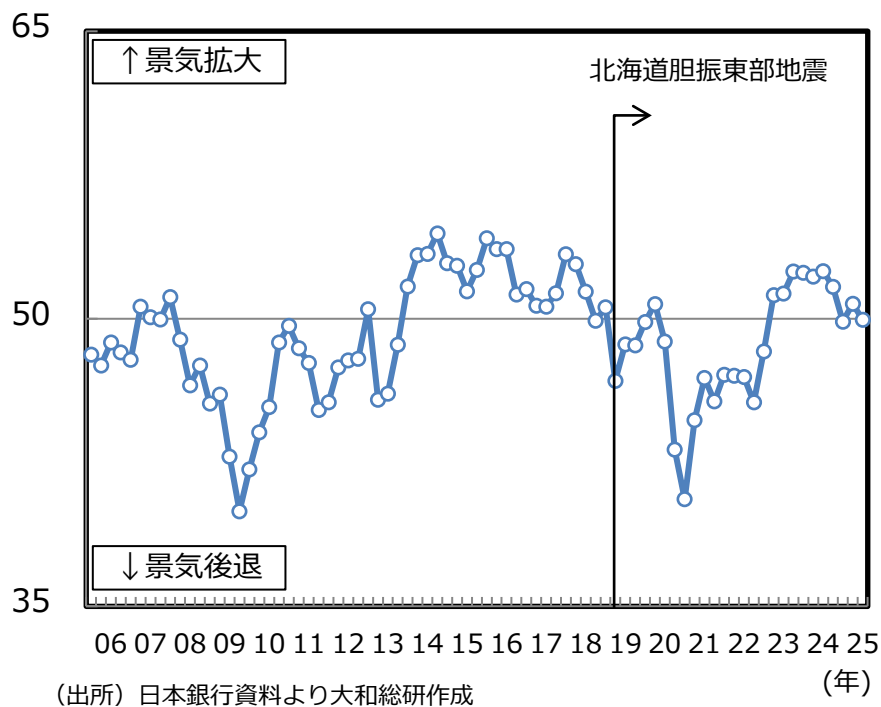
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (24 年 10 月→25 年 1 月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:50.8→25 年 1 月:50.0)。 生産が中心となってインデックスを押し下げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇し、震災以降で最高値となった(24 年 10 月:50.4→25 年 1 月:52.0)。 生産や消費の改善がインデックスを押し上げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、小幅ながら 2 四半期ぶりに上昇した(24 年 10 月:46.7→25 年 1 月:46.8)。 消費が低下したものの、企業マインドや生産などの改善がインデックスを押し上げた。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(24 年 10 月:51.5→25 年 1 月:52.9)。 企業マインドや生産の改善がインデックスを押し上げた。
東海	大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった(24 年 10 月:56.2→25 年 1 月:56.2)。 全ての項目において前回から変化が見られなかった。
近畿	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:53.1→25 年 1 月:53.0)。 企業マインドが改善した一方で、消費や生産の悪化がインデックスを押し下げた。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 10 月:51.1→25 年 1 月:51.5)。 輸出が低下したものの、企業マインドなどの改善がインデックスを押し上げた。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:50.9→25 年 1 月:49.9)。 生産や消費の悪化がインデックスを押し下げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:51.8→25 年 1 月:51.0)。 企業マインドや消費の悪化がインデックスを押し下げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:50.8→25 年 1 月:50.0)。
- 生産が中心となってインデックスを押し下げた。
- 生産は電気機械の悪化に加えて、建築コストの高騰などに伴う再開発案件の延期や規模縮小などから、民間工事向けの金属製品でも悪化している。

大和地域 AI インデックスの推移



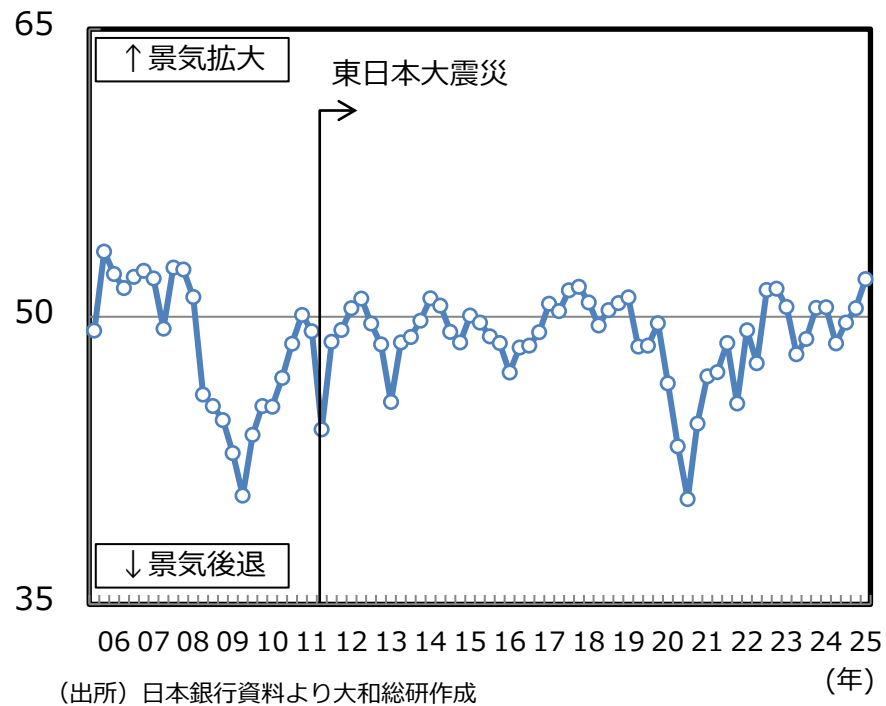
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している	一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している
【生産】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる
【個人消費：百貨店】	↓
回復している	回復のペースが鈍化している

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇、震災以降で最高値となった(24 年 10 月:50.4→25 年 1 月:52.0)。
- 生産や消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は一部自動車メーカーによる挽回生産の影響で輸送機械が改善。さらに消費でも供給体制の正常化で乗用車の新車登録台数が減少から下げ止まりに転じつつあり、観光・ビジネス需要などが堅調でサービス消費も改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



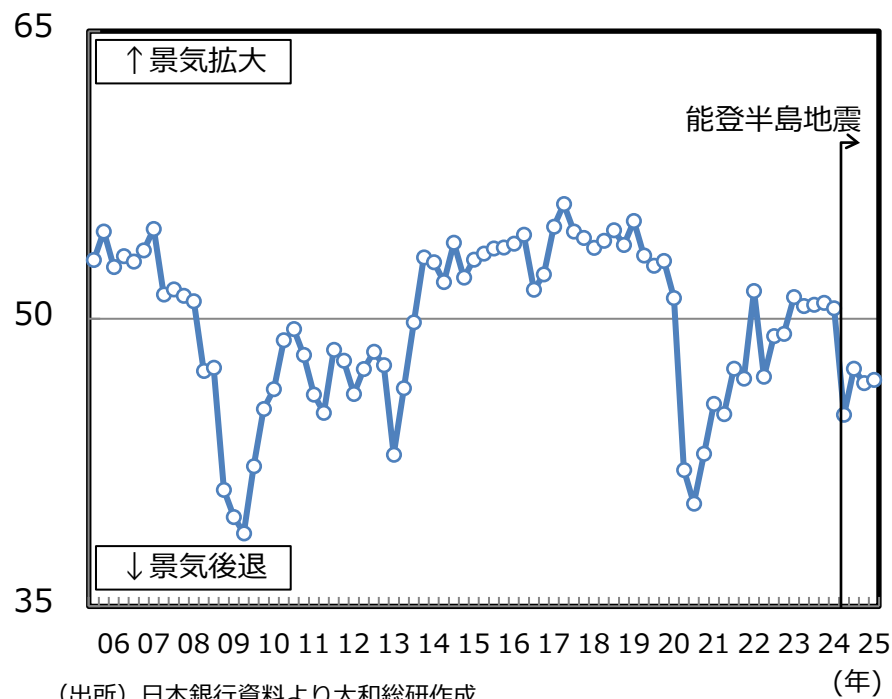
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している
【生産】	↑
持ち直しの動きが足踏みしている	緩やかに持ち直している
【個人消費：サービス消費】	↑
飲食・宿泊を中心に回復している	緩やかに増加している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、小幅ながら2 四半期ぶりに上昇した(24 年 10 月:46.7→25 年 1 月:46.8)。
- 消費が低下したものの、企業マインドや生産などの改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は百貨店・スーパー等の売上高に対して物価上昇による影響が懸念されており、家電販売の勢いも弱まっている。一方、企業マインドは汎用・生産用・業務用機械や飲食・宿泊などがプラスに寄与。住宅投資は能登地域の地震や豪雨後の家屋修繕の注文が増加するなどの動きも。

大和地域 AI インデックスの推移



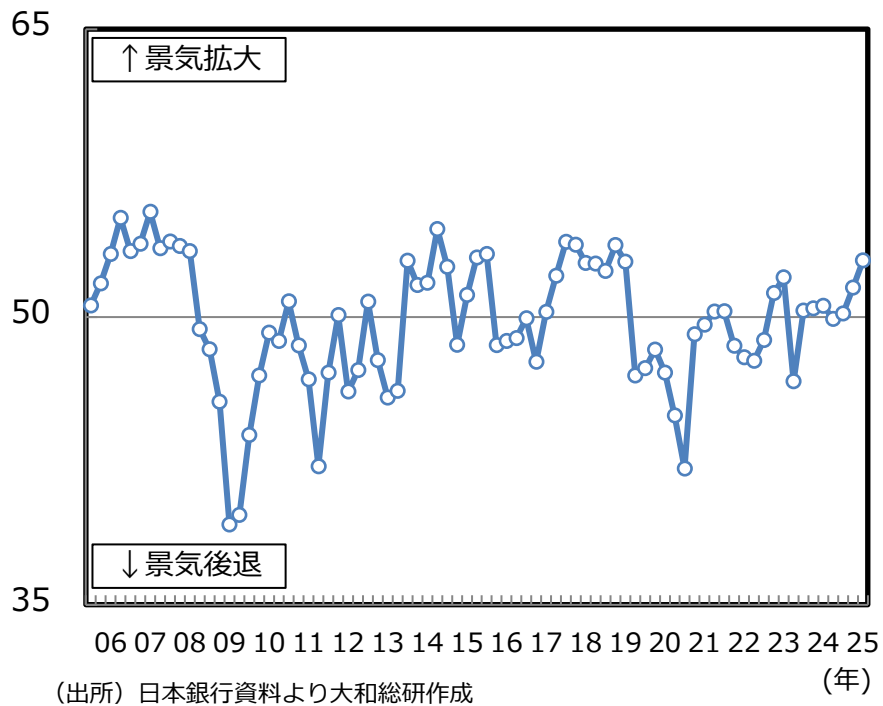
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	↑
一部に能登半島地震の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に能登半島地震の影響がみられるものの、緩やかに回復している
【企業の業況感】	↑
横ばいの動きとなっている	緩やかに改善している
【個人消費】	↓
一部に地震の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇の影響に加え、一部に地震の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(24 年 10 月:51.5→25 年 1 月:52.9)。
- 企業マインドや生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産では、以前よりも労務費の価格転嫁が顧客に受け入れられるようになったことなども背景にあり、減少していた汎用・生産用・業務用機械が下げ止まりに転じている。

大和地域 AI インデックスの推移



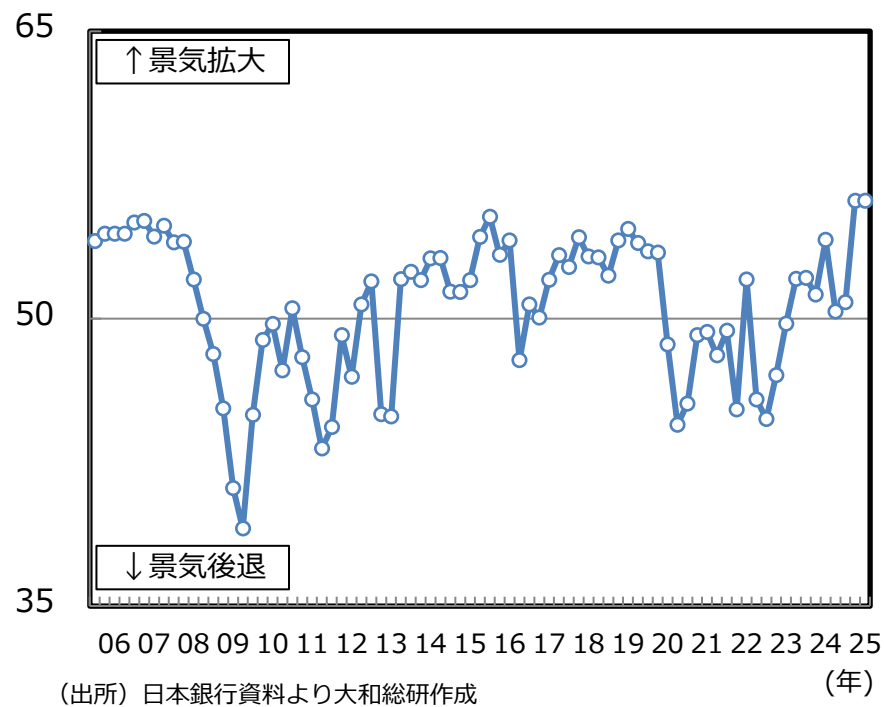
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【生産】	↑
弱めの動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている
【企業の業況感】	↑
横ばいとなっている	改善している

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった(24 年 10 月:56.2→25 年 1 月:56.2)。
- 全ての項目において前回から変化が見られなかった。

大和地域 AI インデックスの推移



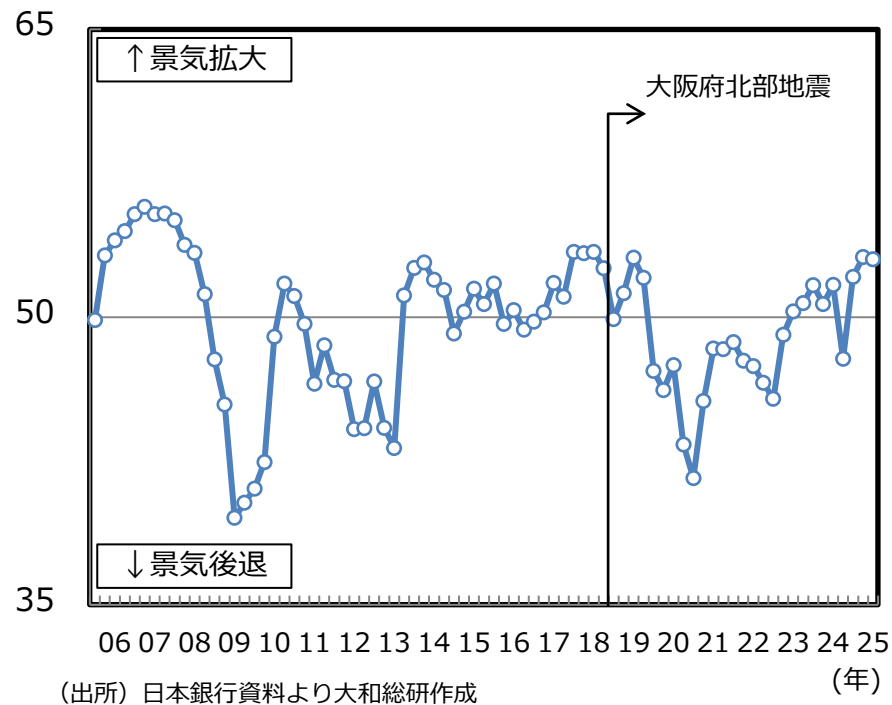
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【生産】	→
増加基調にある	増加基調にある
【輸出】	→
増加基調にある	増加基調にある

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:53.1→25 年 1 月:53.0)。
- 企業マインドが改善した一方で、消費や生産の悪化がインデックスを押し下げた。
- 車載向け電子部品の需要が計画より下振れているため、電子部品・デバイスの生産の動きは弱い。消費は乗用車販売や家電販売で悪化しているが、日用家電は売れ筋が廉価または高価な商品で二極化するなどの動きもみられる。

大和地域 AI インデックスの推移



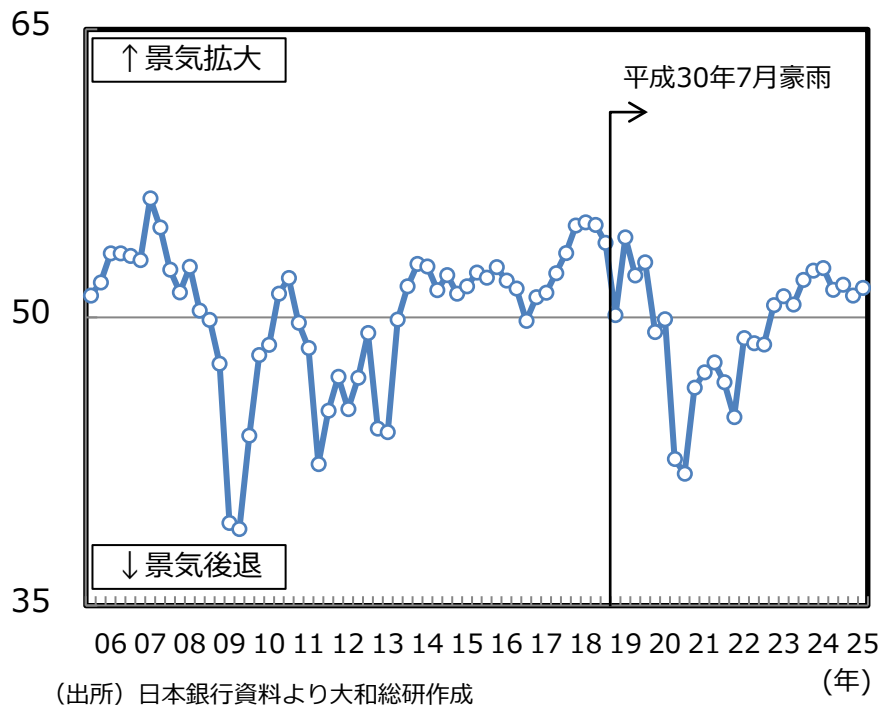
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
【個人消費：家電販売額】	↓
持ち直している	横ばい圏内で推移している
【企業の業況感】	↑
良好な水準を維持している	改善している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 10 月:51.1→25 年 1 月:51.5)。
- 輸出が低下したものの、企業マインドなどの改善がインデックスを押し上げた。
- 輸出は自動車部品で中国にて日系完成車を生産している工場向けが悪化、鉄鋼でもアジア向け鋼材需要が悪化した。一方、企業マインドは金属製品や電気機械などで改善。生産も半導体製造装置や輸送用機械部品向けを中心に、汎用・生産用・業務用機械で改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



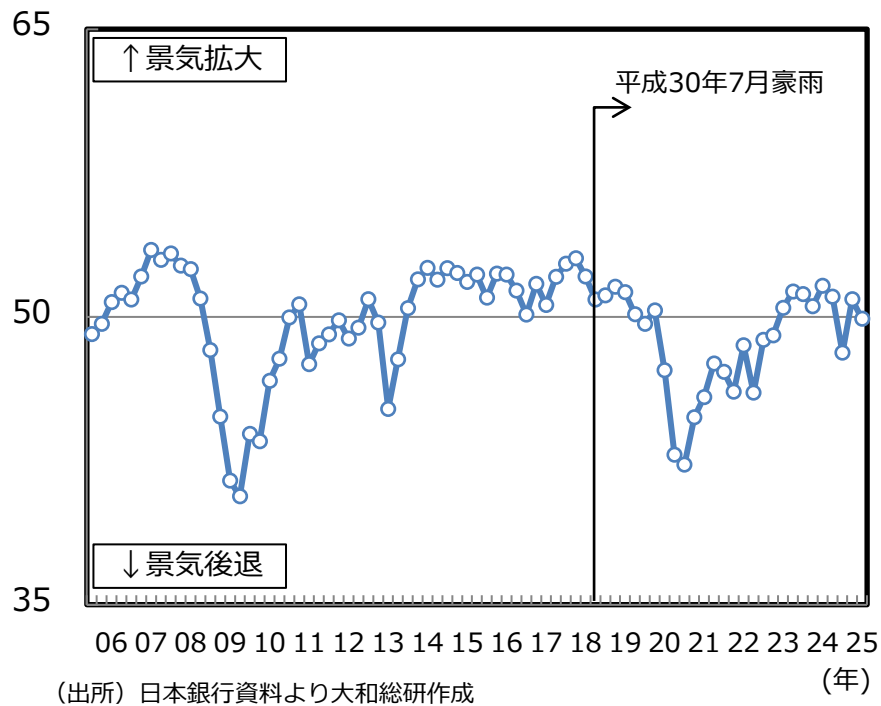
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	→
緩やかな回復基調にある	緩やかな回復基調にある
【企業の業況感】	↑
横ばいとなっている	小幅に改善している
【輸出】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	弱めの動きとなっている

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:50.9→25 年 1 月:49.9)。
- 生産や消費の悪化がインデックスを押し下げた。
- 生産は化学において悪化しており、消費でも家電販売で悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



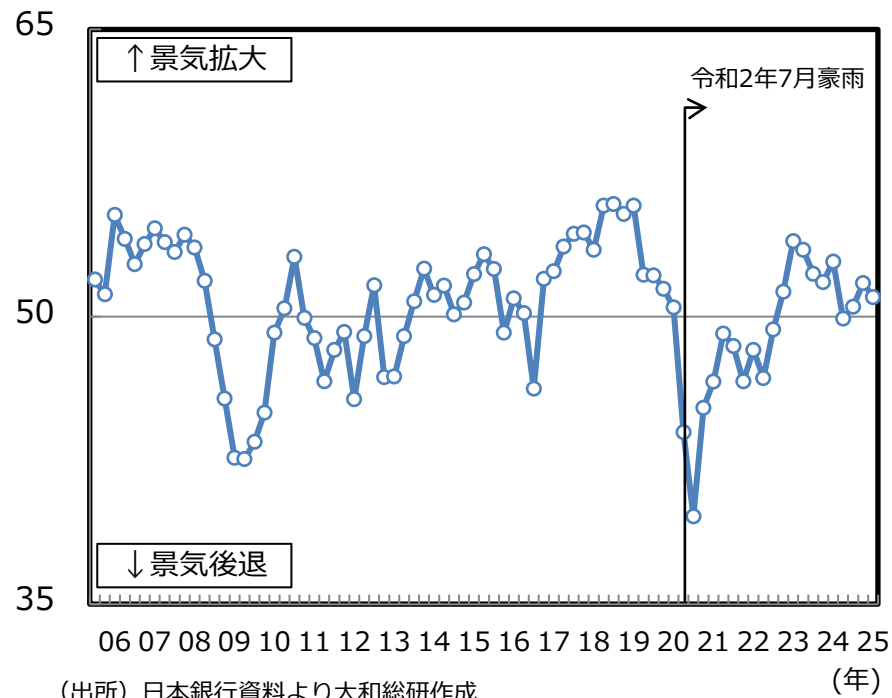
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【生産】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	弱めの動きとなっている
【個人消費：家電販売】	↓
このところ持ち直しの動きがみられる	弱めの動きとなっている

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した(24 年 10 月:51.8→25 年 1 月:51.0)。
- 企業マインドや消費の悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドが製造業・非製造業ともに悪化しており、さらに消費でも、夏場からしばらく続いた高気温を受けて増加していたエアコン需要の一巡や、小型・低単価モデルへの需要シフトによって、足もとの家電販売において悪化している。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 10 月	25 年 1 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している
【企業の業況感】	↓
幾分改善している	幾分悪化している
【個人消費：家電販売】	↓
猛暑の影響から季節家電の需要が増加しているものの、全体としては弱めの動きとなっている	弱めの動きとなっている

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが**必要となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2025 年 1 月 9 日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

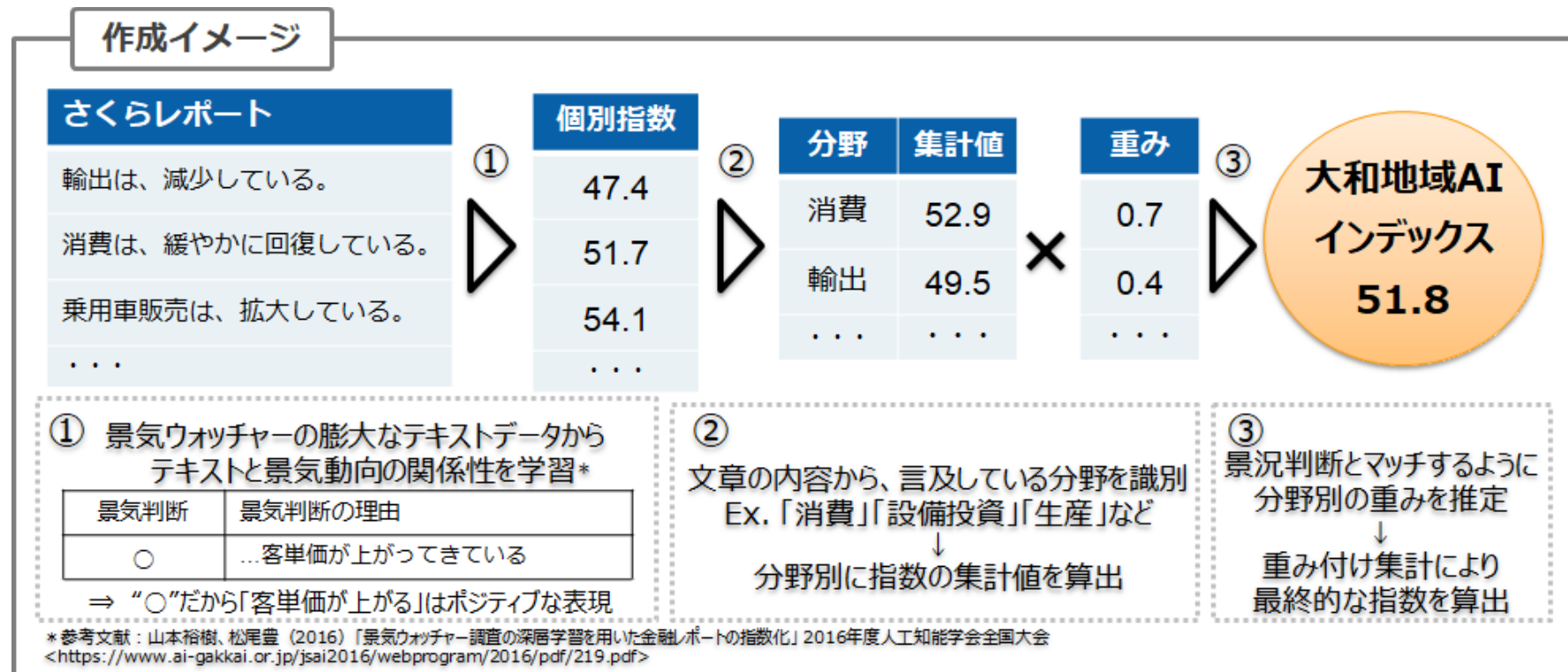
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

（出所）日本銀行より大和総研作成